

PCT/JP 2004/008445

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

17.6.2004

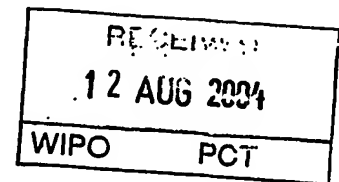
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 6 月 1 7 日
Date of Application:

出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 1 7 2 0 2 4
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 3 - 1 7 2 0 2 4]

出 願 人 株式会社東芝
Applicant(s):

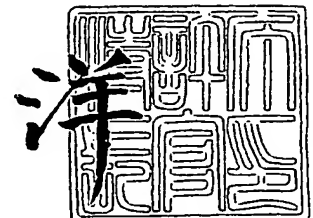


PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2 0 0 4 年 7 月 2 9 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小 川



出証番号 出証特 2 0 0 4 - 3 0 6 6 8 7 2

【書類名】 特許願

【整理番号】 DTA03-028

【提出日】 平成15年 6月17日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G01N 29/06

【発明の名称】 3次元超音波画像化装置

【請求項の数】 14

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都港区芝浦一丁目1番1号 株式会社東芝 本社事務所内

 【氏名】 唐沢 博一

【特許出願人】

 【識別番号】 000003078

 【氏名又は名称】 株式会社東芝

【代理人】

 【識別番号】 100077849

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 須山 佐一

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 014395

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 3次元超音波画像化装置

【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数の圧電振動子から構成される超音波トランスデューサと、前記複数の圧電振動子のうち任意のものから超音波を発生させる振動子選択部と、

前記振動子選択部により選択された圧電振動子が発する超音波が音響媒体を介して検査対象からの反射エコーを受信することにより前記複数の圧電振動子が発生する電気信号を選択的に検出する信号検出回路と、

前記信号検出回路により検出された電気信号から開口合成処理により、前記検査対象の内部に設定された3次元画像化領域内のメッシュに対応させて3次元画像化データを生成する信号処理部と、

前記信号処理部により生成された3次元画像化データを3次元画像化領域内のメッシュ上の3次元画像化データの値に応じて、各メッシュの輝度または透明度を変化させる機能と、前記3次元画像化データの値を3次元座標位置(X, Y, Z)に応じて設定された値で乗算することにより前記3次元画像化データの不要部画像のマスキングまたは画像輝度補正を行う機能とを有する表示処理部とを具備したことを特徴とする3次元超音波画像化装置。

【請求項2】 請求項1記載の3次元超音波画像化装置において、

前記表示処理部は、

前記3次元画像化データを互いに直交する3方向から透視すると共に、前記3次元画像化データのうち透視方向に重なった画像化データのうち最も値の大きいデータを平面に投影することで前記3方向の各方向の3枚の平面画像を生成する平面画像生成部を具備したことを特徴とする3次元超音波画像化装置。

【請求項3】 請求項2記載の3次元超音波画像化装置において、

前記平面画像生成部により生成された3枚の平面画像の上に検査対象形状の輪郭を重ねて描画する輪郭描画部をさらに具備したことを特徴とする3次元超音波画像化装置。

【請求項4】 請求項1、2いずれか記載の3次元超音波画像化装置において

3次元画像化領域内のメッシュに対応した3次元画像化データの値を、事前に設定した設定値と比較して設定値以上のメッシュを出力し、出力した設定値以上のメッシュ数の割合を自動計算し、その値が一定値以上になった場合に異常判定を行う異常判定部をさらに具備したことを特徴とする3次元超音波画像化装置。

【請求項5】 請求項1記載の3次元超音波画像化装置において、

前記トランスデューサを機械的に駆動すると共に、その移動位置を検出する機構部と、

前記機構部により前記トランスデューサが移動されるごとに検出された複数の画像化データを結合する画像結合部と、

前記画像結合部により結合された画像を表示する表示部とを具備したことを特徴とする3次元超音波画像化装置。

【請求項6】 請求項1記載の3次元超音波画像化装置において、

検査範囲に対応した開口部を有し、前記開口部を前記検査対象の検査範囲に合わせて前記検査対象の表面を覆うマスク部をさらに具備したことを特徴とする3次元超音波画像化装置。

【請求項7】 請求項1記載の3次元超音波画像化装置において、

前記超音波トランスデューサは、

前記複数の圧電振動子をマトリクス状に配置してなることを特徴とする3次元超音波画像化装置。

【請求項8】 請求項1記載の3次元超音波画像化装置において、

前記超音波トランスデューサは、

前記複数の圧電振動子を一行に配置してなることを特徴とする3次元超音波画像化装置。

【請求項9】 請求項1記載の3次元超音波画像化装置において、

前記音響媒体は、固体であることを特徴とする3次元超音波画像化装置。

【請求項10】 請求項1記載の3次元超音波画像化装置において、

前記音響媒体は、液体であることを特徴とする3次元超音波画像化装置。

【請求項11】 請求項1記載の3次元超音波画像化装置において、

前記検査対象が平面の境界を持つことを特徴とする 3 次元超音波画像化装置。

【請求項 12】 請求項 1 記載の 3 次元超音波画像化装置において、
前記検査対象が曲面の境界を持つことを特徴とする 3 次元超音波画像化装置。

【請求項 13】 請求項 1 記載の 3 次元超音波画像化装置において、
前記検査対象は、単数の音響特性を有した層からなることを特徴とする 3 次元
超音波画像化装置。

【請求項 14】 請求項 1 記載の 3 次元超音波画像化装置において、
前記検査対象は、複数の異なる音響特性を有した層からなることを特徴とする
3 次元超音波画像化装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、平面配置した多数の圧電振動子で送受信される超音波を用いて検査
対象である構造物内の欠陥、ポイド、酸化膜等の異物や接合部の剥がれの状態を
3 次元 (3D) 的に可視化する 3 次元超音波画像化装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

マトリックス状に独立して複数形成された圧電振動子から構成される超音波ト
ランスデューサを用いた超音波検査装置が提案されている (例えば特許文献 1 参
照)。

従来の超音波検査装置では、複数の異なる音響特性を有した層構造や、表面が
曲面形状の検査対象内の欠陥やポイドや剥がれを超音波により可視化することが
できるものの、超音波による画像化結果を目視で判断することから定量的な判断
が困難であると共に、検査対象との位置関係を把握することが難しかった。さ
らに、検査範囲の周囲に凹凸があると超音波による画像化結果において画質の劣
化が観察されることがあった。

【0003】

【特許文献 1】

特開 2003-149213 号公報

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

このような従来の超音波検査装置では、以下のような問題がある。

①内部検査を行うには人が画像化結果を観察することで行うことから、客観的、定量的な検査が難しい。

②検査対象内の表面反射波の影響や検査対象内の超音波減衰等により、検査対象の深さの違いにより画像の輝度が変化してしまう。

③超音波トランスデューサの大きさが限られているために、広い領域を連続的に画像化することができない。

④検査対象の検査範囲の周囲に凹凸がある場合に、周囲の凹凸部で反射した超音波により検査対象の内部画像の画質が低下することである。

本発明はこのような課題を解決するためになされたもので、超音波による内部検査の精度を向上すると共に、検査範囲を拡大することのできる3次元超音波画像化装置を提供することを目的としている。

【0005】

【課題を解決するための手段】

上記の課題を解決するため、本発明に係る3次元超音波画像化装置は、複数の圧電振動子から構成される超音波トランスデューサと、前記複数の圧電振動子のうち任意のものから超音波を発生させる振動子選択部と、前記振動子選択部により選択された圧電振動子が発する超音波が音響媒体を介して検査対象からの反射エコーを受信することにより前記複数の圧電振動子が発生する電気信号を選択的に検出する信号検出回路と、前記信号検出回路により検出された電気信号から開口合成処理により、前記検査対象の内部に設定された3次元画像化領域内のメッシュに対応させて3次元画像化データを生成する信号処理部と、前記信号処理部により生成された3次元画像化データを3次元画像化領域内のメッシュ上の3次元画像化データの値に応じて、各メッシュの輝度または透明度を変化させる機能と、前記3次元画像化データの値を3次元座標位置(X, Y, Z)に応じて設定された値で乗算することにより前記3次元画像化データの不要部画像のマスキングまたは画像輝度補正を行う機能とを有する表示処理部とを具備したことを特徴

としている。

【0006】

上記表示処理部は、前記 3 次元画像化データを、互いに直交する 3 方向から透視すると共に、3 次元画像化データのうち透視方向に重なった画像化データのうち最も値の大きいデータを平面に投影することで 3 方向の各方向の 3 枚の平面画像を生成する平面画像生成部を具備している。

なお、互いに直交する 3 方向とは、例えば超音波トランスデューサから検査対象を見たときの正面の方向（Z 方向）と、正面と直交する 2 つの側面に対してそれぞれ垂直な方向（X 方向、Y 方向）である。

3 次元超音波画像化装置は、平面画像生成部により生成された 3 枚の平面画像の上に検査対象形状の輪郭を重ねて描画する輪郭描画部をさらに具備している。

3 次元超音波画像化装置は、3 次元画像化領域内のメッシュに対応した 3 次元画像化データの値を、事前に設定した設定値と比較して設定値以上のメッシュを出力し、出力した設定値以上のメッシュ数の割合を自動計算し、その値が一定値以上になった場合に異常判定を行う異常判定部をさらに具備している。

3 次元超音波画像化装置は、トランスデューサを機械的に駆動すると共に、その移動位置を検出する機構部と、この機構部により超音波トランスデューサが移動されるごとに検出された複数の画像化データを結合する画像結合部と、この画像結合部により結合された画像を表示する表示部とを具備している。

3 次元超音波画像化装置は、検査範囲に対応した開口部を有し、この開口部を検査対象の検査範囲に合わせて検査対象の表面を覆うマスク部をさらに具備している。

なお、上記超音波トランスデューサは、複数の圧電振動子をマトリクス状または一列に配置することが好ましい。音響媒体は、固体または液体であることが好ましい。検査対象は平面または曲面の境界を持つことが好ましい。検査対象は、単数の音響特性を有する層からなっても良く、また複数の異なる音響特性を有する層からなるものでも良い。

【0007】

本発明では、超音波トランスデューサの複数の圧電振動子のうち任意のものが

ら超音波を発生させる。圧電振動子が発する超音波が音響媒体を介して検査対象からの反射エコーを受信することにより信号検出回路は複数の圧電振動子が発生する電気信号を選択的に検出する。そして、この信号検出回路により検出された電気信号から信号処理部が開口合成処理を行うことによって検査対象の内部に設定された3次元画像化領域内のメッシュに対応させて3次元画像化データを生成し表示処理部に出力する。表示処理部は、信号処理部により生成された3次元画像化データを3次元画像化領域内のメッシュ上の3次元画像化データの値に応じて、各メッシュの輝度または透明度を変化させる。また、表示処理部は、3次元画像化データの値を3次元座標位置(X, Y, Z)に応じて設定された値で乗算することにより3次元画像化データの不要部画像のマスキングまたは画像輝度補正を行う。

このように超音波トランスデューサを有する3次元超音波画像化装置で合成された3次元画像化データや表示画像を処理したり、超音波トランスデューサを移動させながら得られた複数の画像化データを超音波トランスデューサの位置に応じて結合することにより、検査対象の欠陥箇所をより定量的でかつ直感で判断できる画像化を行うことができる。また、検査対象の検査範囲以外の領域をマスクして画像化することで画質を向上することができる。

また、超音波トランスデューサの位置を検出しながら移動させることが可能な機構部を設けたことで得られた複数の画像化データを超音波トランスデューサの位置に応じて結合することにより、広い領域を画像化することができる。

さらに、検査対象表面の検査範囲を開口部としたマスク部を検査対象の表面に設置することにより、検査範囲周囲の凹凸部で反射した超音波による内部画像の画質が低下を防止することができる。

【0008】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施形態について図面を参照しながら説明する。

図1は本発明に係る一つの実施の形態の3次元超音波画像化装置の構成を示す図である。

【0009】

図 1 に示すように、この 3 次元超音波画像化装置は、信号発生部 1、駆動素子選択部 2、超音波トランスデューサとしてのマトリックスセンサ 9、信号検出回路 4、増幅器 5 a、5 b～5 i、A/D 変換器 6 a、6 b～6 i および並列プロセッサ 7 からなる統合プロセッサである信号処理部 8、表示処理装置 10 などを有している。マトリックスセンサ 9 の前面には、音響伝播媒体 16 が密着されている。マトリックスセンサ 9 は、検査対象（超音波の照射対象）17 の中の欠陥 14 から反射される超音波 U を音響伝播媒体 16、カップラント 18 を介して受信する。なお、音響伝播媒体 16 が例えば水等のように液体の場合は、カップラント 18 は不要である。

【0010】

マトリックスセンサ 9 は、圧電素子からなる複数の圧電振動子 21 a、22 a、23 a～29 a、30 a、30 b～30 h をマトリックス状に配置したものであり、そのそれぞれの圧電振動子 21 a 等は、駆動素子選択部 2 の選択により駆動されるものが決定されて信号発生部 1 からの駆動信号が導線で導かれる。また、それぞれの圧電振動子 21 a 等が発生する電気信号は導線で信号検出回路 4 に導かれる。圧電振動子 21 a 等が電気駆動されると圧電体としての性質から超音波が発生し、発生された超音波は、音響伝播媒体 16 を介して検査対象 17 内の欠陥 14 に達する。欠陥 14 による超音波エコー U は再び音響伝播媒体 16 を介して圧電振動子 21 a 等に入力される。これにより、それぞれの圧電振動子 21 a 等は電気信号を発生する。なお、複数の圧電振動子 21 a、22 a、23 a～29 a、30 a、30 b～30 h はマトリクス状の他、一列あるいは千鳥状に配置しても良い。音響伝播媒体 16 は、固体または液体である。検査対象 17 は平面または曲面の境界を有している。検査対象 17 は、単数の音響特性を有する層からなるものでも良く、また複数の異なる音響特性を有する層からなるものでも良い。

【0011】

信号発生部 1 は、圧電振動子 21 a 等が超音波を発生すべくパルス状または連続の駆動信号を発生するものである。発生された駆動信号は、振動子選択部としての駆動素子選択部 2 に入力される。駆動素子選択部 2 は、駆動すべき一つまた

は複数の圧電振動子 21 a 等を選択して信号発生部 1 から導かれた駆動信号を該当圧電振動子 21 a 等に入力して該当圧電振動子 21 a から超音波 U を発生させるものである。

【0012】

信号検出回路 4 は、複数の圧電振動子 21 a 等に接続されており、圧電振動子 21 a に発生する電気信号を検出するものである。検出された電気信号のうち検査に必要な複数のものは、それぞれ信号処理部 8 内の増幅器 5 a、5 b～5 i に導かれる。

信号検出回路 4 は、圧電振動子 21 a 等が発する超音波が例えば固体または液体からなる音響伝播媒体 16 を介して、平面または曲面の境界を持つ単数または複数の異なる音響特性を有した層からなる検査対象からの反射エコーを受信することにより複数の圧電振動子 21 a 等が発生する電気信号を選択的に検出する。

増幅回路 5 a、5 b～5 i は、導かれた電気信号を増幅し、これを A/D 変換器 6 a、6 b～6 i に供給するものである A/D 変換器 6 a、6 b～6 i は、導かれた電気信号を A/D 変換し、これを信号処理部 8 内の並列プロセッサ 7 に導くものである。

【0013】

信号処理部 8 の並列プロセッサ 7 は、A/D 変換器 6 a、6 b～6 i から導かれたデジタル信号を処理し検査対象の状態を可視化する画像化データ I を生成するものである。信号検出回路 4 により検出された電気信号から開口合成処理により、検査対象の内部に設定された 3 次元画像化領域内のメッシュに対応させて 3 次元画像化データを生成する。並列プロセッサ 7 により生成された画像化データ I は、表示処理装置 10 に出力されて可視化表示処理が行われた後、表示部 35 に表示される。

【0014】

表示処理装置 10 は、平面画像生成部 31、異常判定部 32、輪郭描画部 33、画像結合部 34、表示部 35 等を有している。

平面画像生成部 31 は、互いに直交する 3 方向、つまりマトリックスセンサ 9 から検査対象 17 を見たときの正面 (X-Y 平面) の軸方向 (Z 方向) と、正面

と直交する2つの側面（Y-Z平面）、（Z-X平面）に対して垂直な方向（X方向、Y方向）の合計3つの方向から3次元画像化データIを透視すると共に、それぞれの方向の3次元画像化データIのうち透視方向に重なった画像化データのうち最も値の大きいデータを平面に投影することで各方向の3枚の平面画像を生成する。

異常判定部32は、3次元画像化領域内のメッシュに対応した3次元画像化データの値を、メモリ等に予め設定された判定用の閾値T（図3参照）と比較して閾値T以上のメッシュを出力し、出力した閾値T以上のメッシュ数の割合を自動計算し、その値が一定値以上になった場合に異常判定を行う。輪郭描画部33は、平面画像生成部31により生成された3枚の平面画像の上に検査対象形状の輪郭を重ねて描画する。

画像結合部34は、機構部としての駆動部73（図4参照）によりマトリックスセンサ9と検査対象の相対位置が変更されるごとに検出された複数の画像化データを結合する。

なお、前記異常判定部32は、前記平面生成部31で形成された平面画像や前記画像結合部34により生成された結合画像に対してメモリ等に予め設定された判定用の閾値T（図3参照）と比較して閾値T以上のメッシュを出力し、出力した閾値T以上のメッシュ数の割合を自動計算し、その値が一定値以上になった場合に異常判定を行うことも可能である。

表示部35は、各部より入力される画像化データを表示するものであり、例えば画像結合部34から入力された画像化データを表示する。

すなわち、表示処理装置10は、信号処理部8により生成された3次元画像化データIを3次元画像化領域内のメッシュ上の3次元画像化データの値に応じて、各メッシュの輝度または透明度を変化させる機能を有している。また、表示処理装置10は、信号処理部8により生成された3次元画像化データIの値を3次元座標位置（X，Y，Z）に応じて設定された値で乗算することにより3次元画像化データの不要部画像のマスキングまたは画像輝度補正を行う機能を有している。

【0015】

図2は信号処理部8から表示処理装置10に導かれた画像化データIの表示処理内容を示す図である。

画像化データIは、3D画像化領域40中に立体配置された画像化セル(i)41、画像化セル(i+1)42、画像化セル(i+2)43、画像化セル(i+3)44、画像化セル(i+4)45…に対応させて格納された超音波の反射強度を表す画像化データ(i)51、画像化データ(i+1)52、画像化データ(i+2)53、画像化データ(i+3)54、画像化データ(i+4)55…等の集合体を示している。

【0016】

一方、超音波Uは、検査対象17内の表面S(深さ $Z=0$)で反射されるため、3D画像化領域40中での反射強度は、表面反射波による反射強度分布Rに示すように、表面近傍が明るくなり内部画像が遮られる。このため、校正曲線Cに示す値を深さZに応じて画像化データ(i)51、画像化データ(i+1)52、画像化データ(i+2)53、画像化データ(i+3)54、画像化データ(i+4)55…というように積算して表面位置S近傍の反射強度を低減(透明化)することにより、表面近傍の画像輝度と深部の輝度を均一化することができる。

【0017】

ここで、図2を参照してこの3次元超音波画像化装置にて可視化情報を表示する上で、3D画像化領域40をX、Y、Z方向に透視する画像化方法について説明する。図2はZ方向からの透視像である平面画像X-Y60の表示方法を示す図である。

平面画像生成部31は、図2に示すように、Z方向に一系列に並んだ画像化データ(i)51、画像化データ(i+1)52、画像化データ(i+2)53、画像化データ(i+3)54、画像化データ(i+4)55…のうち、平面画像X-Y60中の最大反射強度のもの、つまり画像化データ(i_{max})57を選択して輪郭描画部33と表示部35へそれぞれ出力する。なお、X、Y方向の透過画像についても平面画像生成部31は、Z方向の場合と同様の方法で最大反射強度のものを選択して表示部35へ出力する。

【0018】

図3は表示処理装置10において、入力された画像化データIから異常部位59を自動的に判定する処理を示す図である。なお、図中、3D画像化領域40中の画像化データIは、超音波の反射強度を表している。

表示処理装置10に画像化データIが入力されると、平面画像生成部31は、図2の場合と同様に、図3に示すように、Z方向に一系列に並んだ画像化データ(i)51、画像化データ(i+1)52、画像化データ(i+2)53、画像化データ(i+3)54、画像化データ(i+4)55…のうち、平面画像X-Y60中の最大反射強度のもの、つまり画像化データ(imax)57を選択して輪郭描画部33と異常判定部32へそれぞれ出力する。なお、X、Y方向の透過画像についても平面画像生成部31は、Z方向の場合と同様の方法で最大反射強度のものを選択して出力する。

異常判定部32は、異常部位59を判定するために、予めメモリ等に設定された判定用の閾値Tから、判定値A以上の反射強度を有する画像化データIを選択(抽出)して表示部35に出力して表示すると共に、選択した画像化データの数のカウント結果から、3D画像化領域40中における異常部位59の占有率を計算することにより、検査対象17の品質の良否を判定する。

なお、前記異常判定部32は、前記平面生成部31で形成された平面画像や前記画像結合部34により生成された結合画像に対してメモリ等に予め設定された判定用の閾値T(図3参照)と比較して閾値T以上のメッシュを出力し、出力した閾値T以上のメッシュ数の割合を自動計算し、その値が一定値以上になった場合に異常判定を行うことも可能である。

輪郭描画部33は、平面画像生成部31より入力された平面画像X-Y60上に、検査対象17の表面形状61、つまり輪郭を描画する。これにより、検査対象17内の欠陥画像58との相対位置を判断しやすくなる。

【0019】

図4はマトリックスセンサ9の検知領域よりも広い(マトリックスセンサ9よりも大きい)検査対象81の内部画像化を行う際の画像結合処理を説明するための図である。ここでは、一例として中実の円筒形状の検査対象81を検査する場

合について説明する。

駆動部 73 は、検査対象 81 を機械的に駆動するものであり、その移動位置を検出するセンサを有している。なお、駆動部 73 は、マトリックスセンサ 9 を機械的に駆動してもよい。この場合、駆動部 73 は、検査対象 81（またはマトリックスセンサ 9）を矢印の方向に回転駆動する。

一方、表示処理装置 10 の画像結合部 34 は、駆動部 73 により検査対象 81 とマトリックスセンサ 9 の相対位置が変更されるごとにセンサによって検出された複数の画像化データを結合して画像データを再配置して出力する。

検査対象 81 を駆動部 73 にて例えば 90° づつ 4 回、回転させて、得られた画像データを画像結合部 34 で結合して再配置して表示部 35 へ出力することで、図 5 に示すように、表示画面 80 上に、検査対象 71 全体の画像化結果を一括表示することができ、複数画面にまたがる欠陥画像 79 から、検査対象 71 内にある欠陥 72 位置を把握しやすい表示画面 80 が得られる。なお、図中で、各画像 (1) 75、画像 (2) 76、画像 (3) 77、画像 (4) 78 は、角度 90° 、 180° 、 270° 、 360° に対応して表示される。

なお、異常判定部 32 は、画像結合部 34 により生成された結合画像に対してメモリ等に予め設定された判定用の閾値 T （図 3 参照）と比較して閾値 T 以上のメッシュを出力し、出力した閾値 T 以上のメッシュ数の割合を自動計算し、その値が一定値以上になった場合に異常判定を行うことも可能である。

【0020】

図 6 は検査範囲 82 が周囲に比べて飛び出ている形状の検査対象 91 を検査する場合に検査対象 91 にマスク部 94 を被せて内部画像化を行う際の説明図である。図中、超音波経路 $U1$ は、マスク部 94 が無い場合の画像化を示しており、その際の描画画像 $U1$ （送信圧電振動子 21a と送信圧電振動子 22a から等距離の曲面で回転楕円体となる）が検査対象 91 内部にかかってしまう。

そこで、このような場合には、検査範囲 82 に対応した開口部を有するマスク部 94 を用いる。そして、検査対象 91 の検査範囲 82 にマスク部 94 の開口部を合わせるようにしてマスク部 94 を検査対象 91 に被せて検査対象 91 の表面を部分的に覆う。

このような検査範囲 82 を露出させたマスク部 94 で検査対象 91 の表面を覆った場合の超音波経路 U2 による描画画像 U2 は、検査対象 91 の内部にかからないことから、検査対象 91 の内部を画像化する際の周囲の凹凸部の影響で超音波が反射して検査対象の内部画像の画質が低下するという不具合を無くすることができる。

【0021】

このようにこの実施の形態の 3 次元超音波画像化装置によれば、マトリックス状に独立して複数形成された圧電振動子から構成されるマトリックスセンサ 9 による超音波送受信で得られた検査対象内部からの無数の反射エコーから合成された 3 次元画像化データの値に応じた輝度表示や画像化データの値を直接判定することにより検査を定量的に行うことができる。

また、3 次元画像化領域の深さに応じて、画像化データ値を増幅することにより、検査対象の表面反射波の影響補正や検査対象内の超音波の減衰補正も可能となる。

さらに、マトリックスセンサ 9 の位置を検出しながら移動させることが可能な駆動部 73 を付設し、複数の画像化データをマトリックスセンサ 9 の位置に応じて結合することにより、広い領域を画像化することができる。

また、検査対象表面の検査範囲を開口部としたマスク部 94 を検査対象の表面に被せるように設置することで、検査範囲周囲の凹凸部で反射した超音波による内部画像の画質が低下することを防止できる。

また、3 次元画像化領域の深さに応じて、画像化データの値を増幅することにより、検査対象の表面反射波の影響補正や検査対象内の超音波の減衰補正を行うことができる。

【0022】

なお、本発明は上記実施の形態のみに限定されるものではない。

上記実施形態では、3 次元画像化装置の中に信号処理部 8、表示処理装置 10 とを備える構成にしたが、それぞれ独立したコンピュータで実現してもよい。

コンピュータは、記憶媒体に記憶されたプログラムに基づき、本実施形態における各処理を実行するものであって、パソコンなどの一つからなる装置、複数の

装置がネットワーク接続されたシステムなどのいずれの構成であっても良い。また、コンピュータとは、パーソナルコンピュータ（パソコン）に限らず、通信機器、情報処理機器に含まれる演算処理装置、マイコンなども含み、プログラムによって本発明の機能を実現することが可能な機器、装置を総称している。

【0023】

上記実施形態における表示処理装置 10 の内部構成は、ソフトウェアで実現できる。ソフトウェアは、フレキシブルディスクなどのコンピュータが読み出し可能な記憶媒体に記憶されていても良く、また、ソフトウェア（プログラム）単体として LAN やインターネットなどのネットワーク上を伝送されるものでもよい。この場合、記憶媒体に記憶されたソフトウェア（プログラム）をコンピュータが読み出したり、LAN やインターネット上のサイト（サーバ）からコンピュータがダウンロードしてハードディスクにインストールすることにより、コンピュータにおける処理が可能になる。

つまり、本発明におけるソフトウェア（プログラム）は、コンピュータと独立した記憶媒体に記憶されているものだけに限らず、LAN やインターネットなどの伝送媒体を介して流通されるものも含まれる。

なお、プログラムは、メモリ、フレキシブルディスク、ハードディスク、光ディスク（CD-ROM、CD-R、DVD など）、光磁気ディスク（MO など）、半導体メモリなどの記憶媒体に、コンピュータが読み取り可能に記憶されているものであれば、その言語形式、記憶形式はいずれの形態であっても良い。

また、記憶媒体からコンピュータにインストールされたプログラムの指示に基づき、コンピュータ上で稼動している OS（オペレーティングシステム）や、データベース管理ソフト、ネットワークソフトなどの MW（ミドルウェア）などが本実施形態を実現するための各処理の一部を実行しても良い。

さらに、記憶媒体は、コンピュータと独立した媒体に限らず、LAN やインターネットなどにより伝送されたプログラムをダウンロードして記憶または一時記憶した記憶媒体も含まれる。また、記憶媒体は一つに限らず、複数の媒体から本実施形態における処理が実行される場合も本発明における記録媒体に含まれ、媒体構成はいずれの構成であっても良い。

【0024】

【発明の効果】

以上説明したように本発明によれば、超音波による内部検査の精度を向上すると共に、検査範囲を拡大することのできる3次元超音波画像化装置を提供できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明に係る一つの実施の形態の3次元超音波画像化装置の全体構成を示す図。

【図2】

画像化データの表示処理内容を示す図。

【図3】

画像化データから欠陥部（異常部）を自動判定する処理を説明するための図。

【図4】

画像結合処理に用いる駆動部を示す図。

【図5】

画像結合処理した結果を表示した表示画面を示す図。

【図6】

マスク部を配置し画質改良する場合の構成例を示す図。

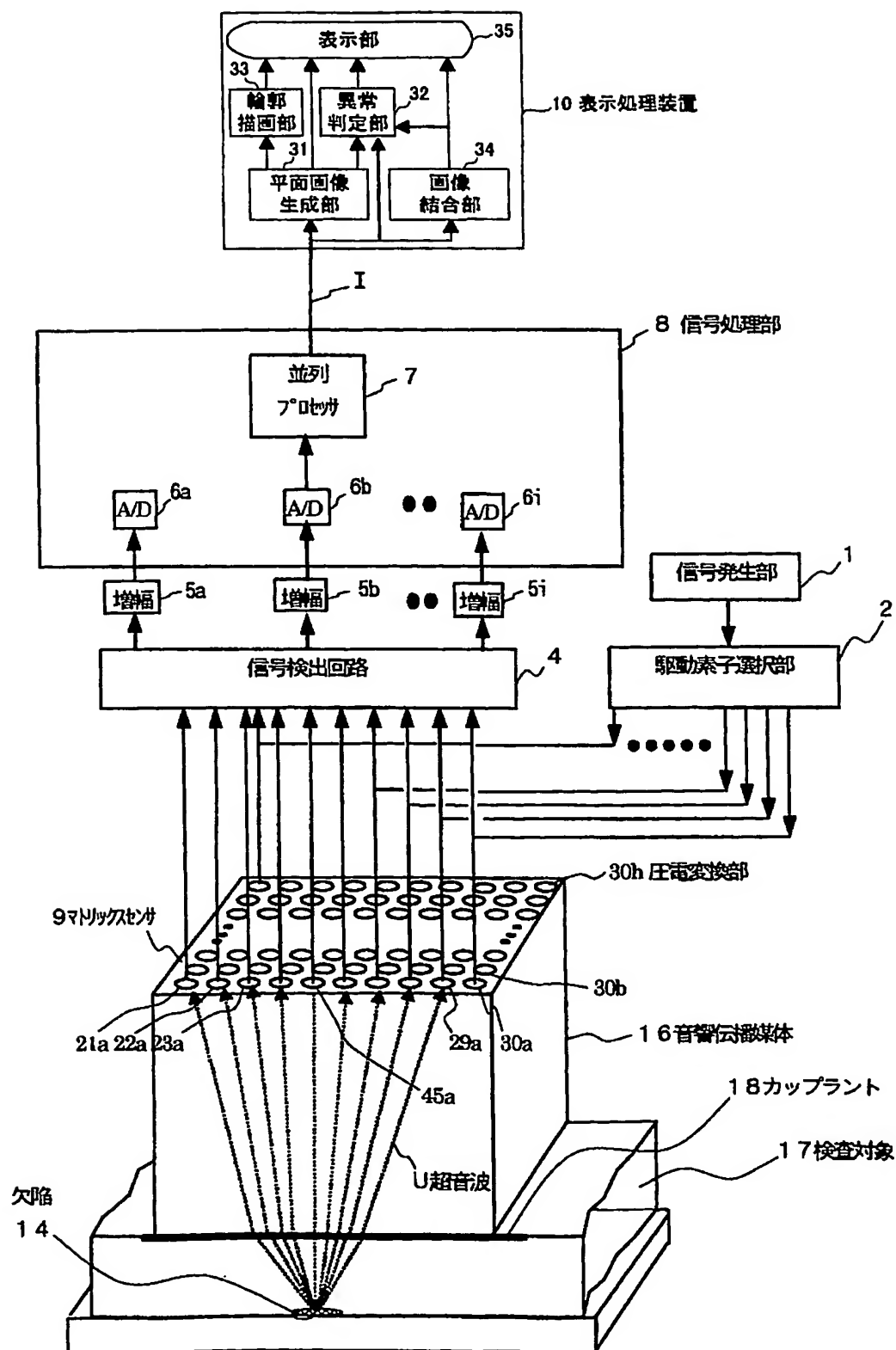
【符号の説明】

1…信号発生部 1a…駆動部 2…駆動素子選択部 4、4a…信号検出回路 5a、5b～5i…増幅器 6a、6b～6i…A/D変換器 7、7a、7b…並列プロセッサ、8…信号処理部（統合プロセッサ）、9…マトリックスセンサ、10…表示処理部、14…欠陥、16…音響伝播媒体、17…検査対象、18…カップラント、21a、22a、23a…29a、30b、30h…圧電振動子、31…平面画像生成部、32…異常判定部、33…輪郭描画部、34…画像結合部、35…表示部、40…3D画像化領域、41…画像化セル（i）、42…画像化セル（i+1）、43…画像化セル（i+2）、44…画像化セル（i+3）、45…画像化セル（i+4）、51…画像化メッシュ（i）、5

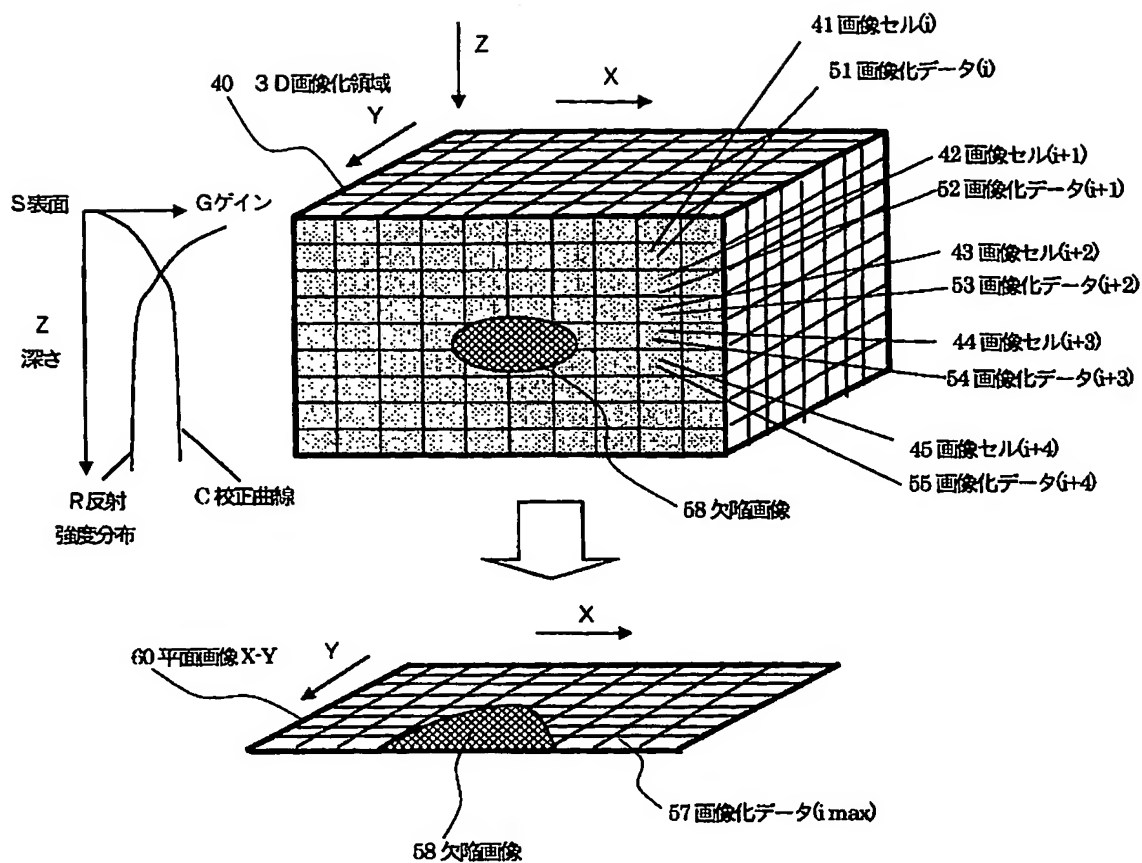
2…画像化メッシュ ($i+1$)、53…画像化メッシュ ($i+2$)、54…画像化メッシュ ($i+3$)、55…画像化メッシュ ($i+4$)、57…画像化データ (i_{\max})、58…欠陥画像、59…異常部位、60…平面画像 $X-Y$ 、61…表面形状、72…欠陥、73…駆動部、75…画像 (1)、76…画像 (2)、77…画像 (3)、78…画像 (4)、79…欠陥画像、80…表示画面、81…検査対象、89…検査対象画像、91…検査対象、92…描画画像 $U1$ 、93…描画画像 $U2$ 、94…マスク部、 A …判定値、 C …校正曲線、 G …ゲイン、 R …反射強度分布、 S …表面、 T …閾値、 U …超音波、 $U1$ …超音波経路 $U1$ 、 $U2$ …超音波経路 $U2$ 、 Z …深さ。

【書類名】 図面

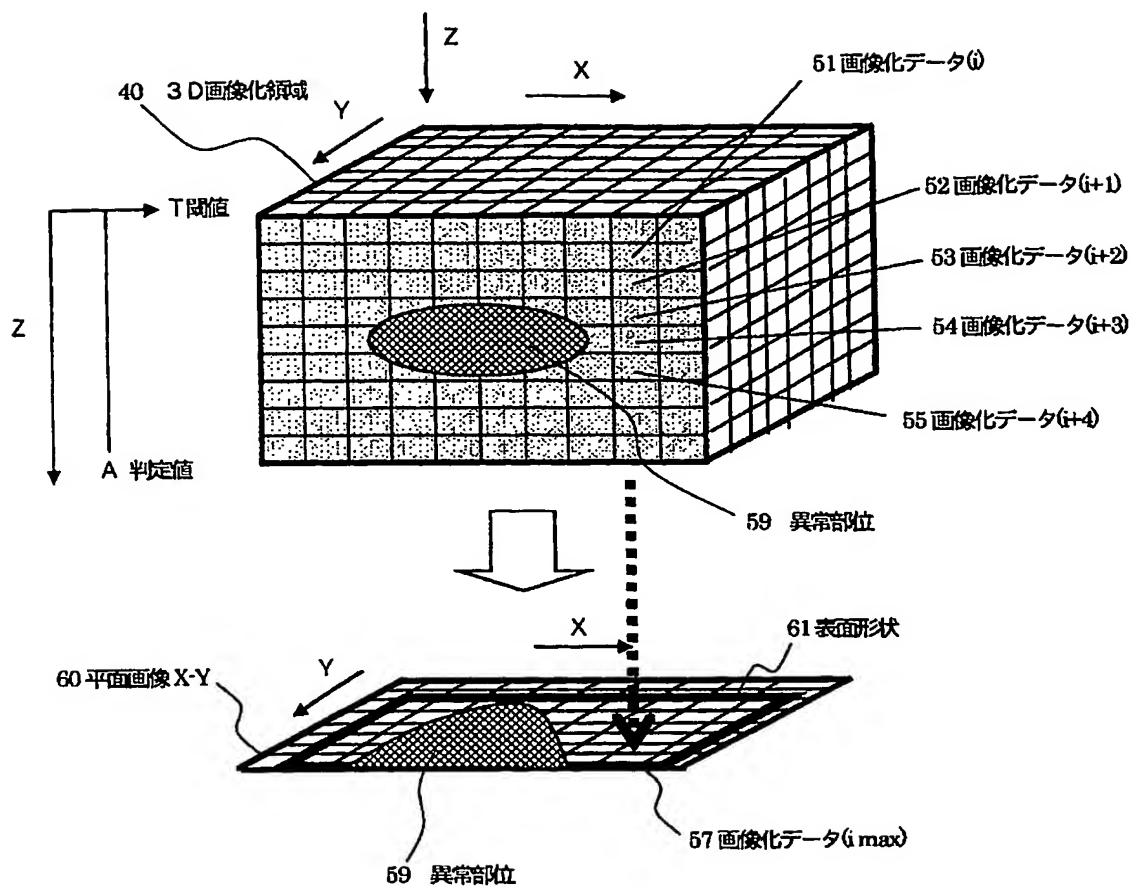
【図 1】



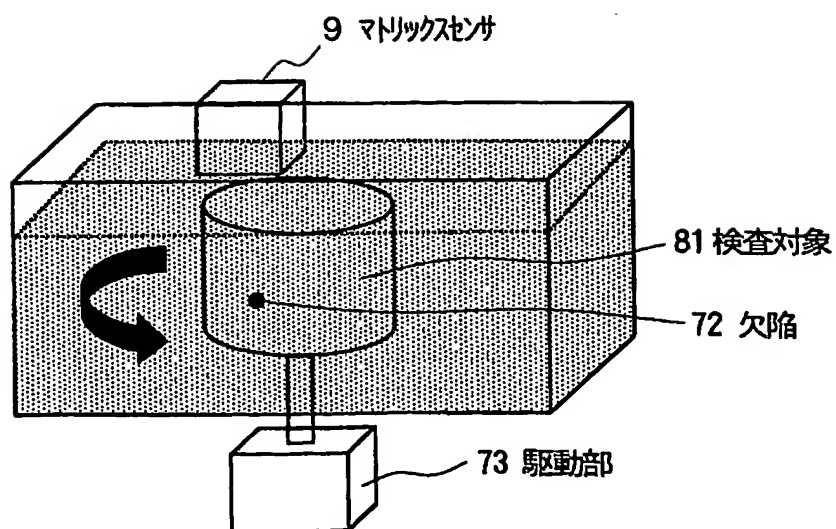
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 定量的で直感的な表示が可能な高解像度の 3 次元超音波画像化装置を提供する。

【解決手段】 マトリックス状に独立して複数形成された圧電振動子から構成されるマトリックスセンサ 9 を有する 3 次元超音波画像化装置において、マトリックスセンサ 9 から得られた超音波の反射エコーを基に 3 D 画像化データを生成し表示画像を平面画像に処理したり、マトリックスセンサ 9 を移動させながら得られた複数の画像化データをマトリックスセンサ 9 の位置に応じて結合することにより、欠陥 14 を定量的でかつ直感で判断できる画像化が可能となる。さらに、検査対象の検査範囲以外の領域をマスクして画像化することで画質の向上を図ることができる。

【選択図】 図 2

特願 2003-172024

出願人履歴情報

識別番号

[000003078]

1. 変更年月日

2001年 7月 2日

[変更理由]

住所変更

住 所

東京都港区芝浦一丁目1番1号

氏 名

株式会社東芝